

# 自治体向けオンライン研修



## ★ オンラインで研修を実施します。

- ・ 弊社が長年実施してきた対面型自治体向け研修プログラムをオンラインで実施します。

[http://www.ariel-cbm.com/services\\_D01\\_b.html](http://www.ariel-cbm.com/services_D01_b.html)

- ・ 受講者が主体的に実践するワークショップ型研修です。
- ・ 対面と同じように講義、演習、発表、全体ディスカッション形式を進めるとともに、対面とオンラインそれぞれのメリットを組み合わせた展開も可能です。以下のモデルプログラムを参照ください。

## ★ オンラインのメリットを活用します。

- ・ 従来、時間、場所、コストなどで制約のあった集合対面型研修に対して、オンライン研修では機動的・柔軟なコミュニケーション機会の拡大があります。この利点を活かして、実践で活かせる能力強化に向けて、集合研修の他に、個人テーマへのコーチングやグループへのファシリテーションを適時組み込みながら個別対応を行います。
- ・ 例えば、業務改善研修では、受講者一人ひとりが担当業務の業務改善を進める場合は「個人別コーチング」を行います。また、職場・チーム単位での業務改善では、それぞれの「グループ別ファシリテーション」を行います。

## ★ 個別対応の考え方

- ・ 講師は個別テーマへのコーチ、またはファシリテーターとして個人、グループの主体的な活動をサポート・アドバイスします。
- ・ サポートは「語り合い」を通じて行います。「語り合い」の具体的な進め方・講師の役割などは『月刊人事マネジメント』の【「問題解決プロセスマネジメント能力」を実践型WSで開発する】を参照下さい。

<http://www.ariel-cbm.com/publications.html>

## 【自治体向け研修の実績】

[http://www.ariel-cbm.com/services\\_D01\\_b.html](http://www.ariel-cbm.com/services_D01_b.html)

# モデルプログラム1：業務改善能力向上（立案と評価）

## ★ ねらい

- (1)業務改善を通じて創出した時間を地域課題解決活動に活かすこと。
- (2)業務改善活動を通じて地域の問題解決に貢献できる問題解決型人材を育成すること。

## ★ 創出した時間の活用対象

- ①既存事業・業務の強化・充実
- ②将来ビジョン実現に向けた政策形成・展開
- ③残業時間を減らし、ワークライフバランス型職場の実現
- ④地域主体のまちづくりを推進する人材の育成

## ★ 自治体で求められる問題解決型人材

- ①職場やプロジェクト使命・目標達成に向け、
- ②多彩なステークホルダーとの協働において、
- ③問題設定、対策立案、実施・評価という問題解決プロセスを、
- ④成果（アウトカム）実現へ効果的・効率的にマネジメントする人材

## ★ 特徴

- (1)自治体での業務改善の実践事例（①改善余地、②改善立案の視点、③成果を出すための実施上のポイント）を使い、職場での実践に組み込み、成果を出すことを重視したアプローチです。
- (2)業務改善に慣れていない人を対象としたシンプルなアプローチです。
- (3)シンプルな内容なので業務改善への時間負荷が少ないアプローチです。
- (4)業務担当者・職場主体で行うアプローチです。

## 【進め方の例】

### 1回目

#### 全体研修①

業務改善の  
基礎と企画立案

- 業務改善の知識・進め方の習得
- 担当業務の業務改善企画書の作成

### 2回目

#### 個人別研修①

業務改善実施の  
事前評価（段取り確認）

- 業務改善企画書内容の説明と語り合い

### 3回目

#### 個人別研修②

業務改善実施の  
途中評価（進捗確認）

- 業務改善活動の進捗報告と語り合い

### 4回目

#### 全体研修②

業務改善の結果評価  
（活動の振り返り）

- 業務改善結果評価の進め方・活かし方
- 成果発表と講師のコメント
- 業務改善結果評価と次の活動計画作成

※集合型、オンライン型、またはミックスタイプで行うことができます。

# モデルプログラム例：政策形成能力向上

## ★ ねらい 政策形成(企画)能力と説明責任能力の強化

- ★ 目標
- ①地域の問題を解決するための政策形成の考え方・進め方を理解します。
  - ②成果実現に向けた政策形成を支える基礎スキル・手法の習得を図ります。
  - ③地域の問題を解決する政策を立案し、政策提案書としてまとめます。
  - ④政策提案書を経営幹部への発表と質疑応答を通じて提案内容の共有を図ります。

## ★ 特徴

- ①地域が抱える課題をテーマにグループ研究を通じて政策提言を行います。
- ②現状把握、問題分析、既存事業の評価を行い、実態に即した提案を行います。

### 「グループ研究の進め方」

導入研修後は、グループ毎に研究活動を行い、その活動成果を3回目以降の集合研修で発表し、研究内容を固めていきます。

### 「グループ研究への講師による指導、アドバイス」

グループ研究においては、グループの考え(想い)を重視しながらも、一人ひとりの考え、グループ内ディスカッションを可視化しながら整理し、論点の共有や不足点への気づきを促し、次の活動につなげるアプローチを行うことで、各メンバーが主体的、自律的な研究活動に取り組む環境をつくります。また、集合研修以外でもグループからの成果物・検討項目・質問に対して、講師からの指導、アドバイスをフィードバックします。

## ★ グループ研究を通じて開発する政策形成に求められるスキル

1. 目的志向の問題解決スキル
2. 論理的思考（ロジカルシンキング）
3. 説明責任のコミュニケーションスキル
4. 協働のコミュニケーションスキル
5. プロジェクトマネジメントスキル

【進め方の例】 導入研修と最終報告を対面で行い、中間①、②をオンラインで行う組み合わせです。

	導入研修	中間①	中間②	中間③	最終報告
AM	講義・演習	<b>講義</b> グループワーク ○研究テーマ案 ○テーマ選定理由 ○政策課題 ○研究活動方針	グループ別発表 ○政策課題 ○現状分析 ○今後の活捗計画	グループ別発表 ○政策課題 ○課題解決の方向性 ○今後の活捗計画	グループ別発表 ○最終報告内容
PM	講義・演習	グループ別発表 ○発表と質疑応答 ○講師コメント グループワーク	グループワーク	講義 ○プレゼンテーション グループワーク	グループワーク